



# 止まつたままの時計が動き出した。

川俣スケートクラブ会長  
菅野十一さん(79歳)

## 大好きな子どもたちの笑顔

田んぼリンクを続けて約30年、その間53人の国体選手を出してっかんない。平成7年のふくしま国体では、少年男女の部14人中9人が山木屋の子どもたちだがら。それはうれしがったし、山木屋の誇りだよない。たかが田んぼ、されど田んぼリンクだがら。大したものだぞない。

リンクづくりは、夜の作業だからよ、それは大変だわない。なんだけど、元気にスケートをする子どもたちの笑顔なんか見たらもう寒さなんて関係なくなっちゃってない。もの好きなんても言わっちゃけど、俺は子どもらの笑顔が大好

きで、田んぼリンクが生きがいのようなもんなんだべない。

昔みたいに山木屋の子どもたちが元気に田んぼリンクを滑ってる光景を、またこの目で見たいっつうのが今の気持ちだない。

俺もまだまだ頑張んねっかなと思ってるよ。



▲昭和61年2月9日、第2回川俣スピードスケート大会開催時の写真。菅野十一さん、当時49歳。

平成11年10月 川俣スケートクラブが優良社会体育団体文部大臣表彰を受賞

平成23年3月

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難により休業

平成28年1月

田んぼリンク復活

## 誰もが愛したリンク

今までこそ珍しくなったが、当

昭和59年1月、当時、川俣町長であった渡辺弥七氏の「山木屋の冬は、雪が少なく寒い。田んぼに

水を張ってスケートを始めてみて

はどうか」という言葉から田んぼリンクの歴史は始まった。

その言葉を受け、当時、川俣町議会議員であった米倉隆氏は、す

ぐさま群馬県嬬恋村の天然スケー

トリンクを視察した。米倉氏の「な

んとかなるぞ」の一聲で、多くの

人が協力し、試行錯誤の末、2月

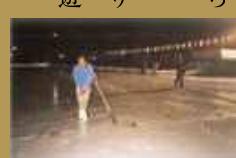
には、山木屋の天然スケートリン

ク「田んぼリンク」が誕生した。

田んぼリンク誕生の背景には、子どもたちの運動不足解消という狙いがあった。ゲーム機の登場により、子どもたちが外で遊ばず、家の中にこもりがちだったのだ。

「そんなことばかりしていいで外で遊んでこい」「だって外には何もないよ」

こんなやり取りに意地を見せたのが、山木屋の人たちだった。



選手や関係者が使っていた事務所の椅子。  
まさに田んぼリンクは、山木屋の愛すべき風物詩



▲選手や関係者が使っていた事務所の椅子。  
まさに田んぼリンクは、山木屋の愛すべき風物詩